授業科目	＊ツーリズム演習(A クラス)					実務家教員担当科目	-
単位	1	履修	必修	開講年次	1	開講時期	後期
担当教員	池口　功晃						
授業概要	観光を取り巻く人々の行動や社会の仕組みを捉えた社会科学としての観光学とはどのような学問なのでしょうか。この授業ではプレゼンテーションを通じてツーリズムについて幅広く学ぶことにより、学生自身が観光学とはどのような学問であるかを説明できるようになります。						
授業形態	講義				授業方法	本授業はプレゼンテーションを取り入れている。	

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1. 観光の歴史について説明することができる。 2. 観光と産業の関わりについて説明することができる。 3. 観光政策について説明することができる。 4. 観光と地域の関わりについて説明することができる。 5. ニューツーリズムについて説明することができる。
理想的レベル	授業で習得した知識を卒業研究や観光フィールドワークに生かすことができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート	50%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	50%	
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	T012101J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
該当部分の復習	1

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	ツーリズムに関するプレゼンテーション（1）A グループ（観光の国際化と大衆化）
第 3 回	ツーリズムに関するプレゼンテーション（2）B グループ（旅行者行動と観光対象）
第 4 回	ツーリズムに関するプレゼンテーション（3）C グループ（観光と経済、観光統計）
第 5 回	ツーリズムに関するプレゼンテーション（4）D グループ（旅行産業の現状と展望）
第 6 回	ツーリズムに関するプレゼンテーション（5）E グループ（宿泊産業と運輸産業）
第 7 回	ツーリズムに関するプレゼンテーション（6）F グループ（テーマパーク産業と文化施設）
第 8 回	ツーリズムに関するプレゼンテーション（7）G グループ（観光産業とホスピタリティ）

第 9 回	ツーリズムに関するプレゼンテーション（８）H グループ（観光立国と国際観光）
第 10 回	ツーリズムに関するプレゼンテーション（９）I グループ（諸外国の観光政策）
第 11 回	ツーリズムに関するプレゼンテーション（10）J グループ（まちづくり、コンテンツツーリズム）
第 12 回	ツーリズムに関するプレゼンテーション（11）K グループ（ブライダルと観光）
第 13 回	ツーリズムに関するプレゼンテーション（12）L グループ（メディカルツーリズム、ダークツーリズム）
第 14 回	ツーリズムに関するプレゼンテーション（13）M グループ（フードツーリズム）
第 15 回	ツーリズムに関するプレゼンテーション（14）N グループ（祭礼文化と観光）
テキスト	竹内正人・竹内利江・山田浩之『入門観光学』ミネルヴァ書房，2018 年
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	島川崇『新しい時代の観光学概論』ミネルヴァ書房，2020 年
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションについては、発表後のコメントを通してフィードバックをおこなう。
学生へのメッセージ・コメント	「観光学入門」を履修しておくことが望ましい。 積極的な態度で授業に参加することを期待します。